広島大学短期交換留学(HUSA)プログラム 派遣留学報告書

			記入日	平成	29年	2月	8 日
所属学部 • 研究科	教育学部 英語文化系コース	2年次(留学開始時点)				
留 学 先 大 学	カーディフ大学(国名:イギ!	Jス)					
所属学部・学科等名	現代外国語学部						
	交換留学生						
留 学 期 間	平成 28 年 9 月	4 日 ~	平成 29	年	1 月	3 () 目
1. 渡航について							
ビザについて	ビザの種類: students 6 months	s VISA					
	ビザ申請先:						
	取得方法,提出書類:滞在期間 せんでした。最終目的地のカー						
	手続きに要した日数:0日						
そ の 他 必 要 な事 前 手 続 き	大学のオンラインシステムのプ	アカウントの取	得など				
出 国 年 月 日	平成 28年 9月 4日						
経路	大阪―パリーアムステルダム						
現地での出迎え	□無						
到着後オリエンテーショ ン の 実 施 状 況 ・ 期間・内容				要事項	の連絡が	ぶありま	した。
帰国年月日	平成 29年 1月 30日						
 経 路	行きと同じ						
2. 留学経費について	L						
所総額	1,254,934		円				
要	渡航費	364,750	円				
性 費	保険料	68,120	円				
	教科書代(学費) 文房具含む	15,402	円				
内訳	宿舎費	255,420	円				
. 777	食費 その他(日用品・服費)	189,913	円				
	(交際費・旅費)	154,915 175,293	円				
	(ケータイ・郵便費)	31,121	H				
	į .		1				
 3. 授業について			·				

年 学期		月	B	~	月	B	
年 学期		月	F	~	月	В	
年 学期		月	F	~	月	В	
授業の概要について (カリキュラム, プロ グラム等)	現代外国語学部の技 translation methods, S 用のお金を払って improvement) を受	Specialised て受ける真	English La 英語の授	inguage, Ii	ntroduction to M	odern British Politi	cs)と留学生
単位互換希望の有無	□有 ※有の場合,所属	学部支援	室へ提出の)単位認定	定申請書類のコ	ピーを添付するこ	_ <u>_</u>
学術面に関する後輩へ のアドバイス	予習復習をしっかり 業が大切。	りして十分	かな準備が	必要。学	生同士でのセミ	ナーもあるので	1つ1つの授
4. 生活等について							
(1) 留学先の住居につい	ハて						
住居の種類	□その他(シェア)	ヽウス)					
住居の広さ	約 ?	m²	Ī	同居人の有	無	□有(4人)	
住居に附属する設備	□電気 □ガス□水洗便所 □陽□インターネット	□水道 愛房 □	□給湯台所	売 □シ	/ヤワー		
住居費	1ヶ月当たり 3	300£ (現地通貨)			約 42000円	
住居を決定した方法	□不動産業者					_ i	
留学先での住居全般に 関するアドバイス	1学期のみの学生に すのもいいですが、 めします。大変です	写真と実	際が違う場	景合が多し			
(2) 医療について							
1日以上入院を要する 病気・怪我等を	□しなかった						
入院した場合			により		日入院		
留学に当たり保険を	□掛けた						
掛けた場合	□日本						
掛け金は	年間 補償額 死亡 その他(円 円,	入院1日)	円		
留学前後での予防接種 の必要の有無	□無						
有の場合,その種類,回数,費用,受けた医療機関名							
日常的な健康について 不安が	口なかった						
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	お世話になっていた	いのでわ	かりません	<i>-</i> √₀			

留学先での健康管理,衛 生面について特に注意	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	を日常的にする習慣がないので、授業内で風邪をうつされる 洗いうがいをすること。栄養バランスのとれた食事をとるこ	
すべきこと	とが大切。		
(3) 危険を感じた地域,	状況		
大学での通学路で殺人事	牛が起きた。 夜のホームレスの物乞	いが怖かった。	
(4) その他生活等に関	して参考となる事項		
現金をあまり使わない、	基本カード。学生はシェアハウスが	一般的。	
5. 帰国後の進路に	ついて		
卒業予定年月	平成 31年 3月 (当初の2	卒業予定年月 平成 31年 3月)	
卒業が遅れる見込みの	□4年次に留学したため □	単位不足のため □新卒で卒業するため	
場合、その理由	□その他(具体的に)	
単位互換手続の予定	□有 留学先で取得単位数()単位	
	まだ未定 		
現在の状況および今後 の予定・進路等	教育実習に1年遅れで参加し、教	教員免許を取得する予定。就職活動もする。	
就職活動や留学前の単	4年内での卒業が可能かどうか	留学を決定する前に同じコースで自分と同じ時期に留学さ	
位取得,教育実習等に	れた方にお話を聞いたりしました		
ついての工夫			
6. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等			
書籍、サイト名	詳細(出版社,URL等)	コメント	

7. 自由記述(後輩へのアドバイス等)

本当にあっという間の5ヶ月間でした。授業に関して、私が良いと感じたのは、必要な教材が全てオンラインでダウンロードできるので、教科書を買う必要がなかったことです。講義とは別にセミナーというディスカッション中心の授業の形態がありました。日本ではあまりないので難しかったのですが、新鮮で学びが多かったです。

英語の能力が足りず、言葉の壁を感じ、戸惑うことも多かったですが、素敵な現地の学生、ヨーロッパからの留学生と勉強だけでなく遊びも充実させることができました。今帰国して思うことはヨーロッパの人にとって日本は遠い道の国です。自分の国に興味を持ってもらえて自分が無知なばかりにしっかりした回答をしてあげられないことがありました。英語の事前準備も大切ですが、自国について理解を深めることも大切だと思います。

8. 留学先の大学情報(有名な分野, 大学の規模)

ロンドンからバスで4時間、電車で2時間のウェールズの首都、カーディフの中心に位置する大学です。日本と違ってキャンパスではなく、車の通る普通の通りにそれぞれの学部の建物が並んでいます。授業のある平日のその通りは学生でとても賑います。休日も図書館には学生が多く集まる様子から、彼らの勉強の熱意が感じられます。カーディフ大学は日本語教育で有名です。日本人留学生と現地の日本語を学んでいる学生との交流が盛んで、すぐにそこから友達の輪が広がります。日本人の留学生にとって優れた環境が整っていると言えます。

(授業履修について)

所属	禹学 部	3 • 矽	开究 科	教育学部 2年次(留学開始時点)
留	学	先	大学	カーディフ大学(国名:イギリス)
所属	美学部	・学え	科等名	第3類 英語文化系コース
在	籍	身	分	学生
留	学	期	間	平成 2016 年 9 月 4日~ 平成 2017 年 1月 30日

1. 履修登録について

いつ頃**履修登録をしましたか。** (例:出願時(月頃)、出発直前(月頃)、派遣先大学到着後(月頃))

派遣大学到着後(9月下旬)

希望の科目をどの程度履修できましたか。 (例:すべて履修できた・いくつか変更させられた・ほとんど履修できなかった) もともともらっていたブックレットに載っていた自分が取りたかった授業は全て履修できた。

履修できなかった理由、変更が必要になった理由を述べてください。 (例:3年生以上しか履修できない科目だった)

交換留学生に履修制限がある科目はありましたか。どのような制限ですか。履修に際して必要書類はありましたか。

留学生向けの授業はあったが、制限はありませんでした。

2. 履修科目について

履修科目数	合計5科目
履修科目1	
科目名	Japanese History
時間数	1週間に50分の授業が合計1回(不定期でセミナーもあり)

科目内容、予習・復習・試験・レポート等具体的な内容について記述してください。

日本の歴史を勉強します。予習の読み物が毎回大量に出ました。課題のエッセイ(1500字)は4つのトピックから好きなものを選び、書き上げます。

履修科目 2	
科目名	At the roots of European culture,
時間数	1週間に50分の授業が合計2回(セミナーは2週間に1度)

科目内容、予習・復習・試験・レポート等具体的な内容について記述してください。

ローマ帝国や中世のヨーロッパに焦点を当てて、文化の根源を探求する。予習のための読み物が毎回授業前に出ていた。課題はエッセイでクリスマス休暇前に提出。これも自分で5つあるトピックの中から少なものを選び、書く。

履修科目3

科目名	Introduction to translation methods,
時間数	1週間に50分の授業が合計1回(セミナーもあったが月に1回程度だった)

科目内容、予習・復習・試験・レポート等具体的な内容について記述してください。

様々な翻訳に関わる技法を学び、それに伴う問題を考える。様々な言語に翻訳されたハリーポッターを見比べるのが面白かった。課題は日本語の文章を英語に翻訳するのみだった。

履修科目4

科目名	Specialised English Language
時間数	1週間に50分の授業が合計1回

科目内容、予習・復習・試験・レポート等具体的な内容について記述してください。

パラフレーズの仕方、エッセイの書き方、プレゼンテーションをしました。試験はたくさんある情報をパラフレーズして賛成か反対が決めてエッセイを書くことでした。

履修科目5

科目名	Introduction to Modern British Politics
時間数	1週間に50分の授業が合計1回

科目内容、予習・復習・試験・レポート等具体的な内容について記述してください。

イギリスの政治を扱った授業。イギリスが EU 脱退を決めたばかりだったので興味深かったです。 予習として毎回読み物が出ていました(そこまでの量ではない)。エッセイが課題としてありましたが、全てトピックが授業でやったものなので困難ではなかったです。

① 学習の概要に関するレポート

カーディフ大学の授業形態は広島大学と異なる点が多かったので、少し戸惑いました。授業は全て50分間でした。90分の授業、ましてやターム制に伴う比較的長期間の授業に慣れていた私は一つ一つの授業が大変短く貴重に思えました。そのため、広島大学にいた時と比べて集中して受講することができました。受講した授業の中には講義だけでなくセミナーと呼ばれる、学生中心の話し合いや意見交換、課題となるエッセイの書き方を教えてくれる授業も存在しました。中でもAt the roots of European culture という授業はとても難しいと感じました。この授業は現地の学生だけでなくヨーロッパからの留学生も受けていたので、実に刺激的でした。彼らは積極的に質問し、発言していました。授業の内容はローマ帝国など中世の歴史を学びながら、ヨーロッパの文化の源を紐解くという興味深いもので日本史を勉強してきた私にとって新鮮でした。授業の内容だけでなく学生の授業態度も勉強になった授業でした。

カーディフ大学の授業はそのトピックに関して、自力で学びを深めさせようとするアプローチが多かったです。そのため、授業はそのトピックの初歩的な情報、導入を紹介する形態が多かったように思えます。これは「もっと知りたい勉強したい!と思ったら、自分でしなさい」といったポリシーが存在したからだと思います。学生たちにたくさんの書籍や文献を読むようにと無意識的に暗示しているので、図書館に勉強に行くといつも熱心に文献を漁る学生をテスト期間ではないのに見かけることが多かったです。

ほとんど全ての授業が授業前に扱う内容をより理解できるように予習として読み物がたくさん課題として出されました。5ページ未満の軽いものから、30ページに及ぶ重いものまで幅広く取り組みました。それを読まないと授業の理解が深くないまま授業に参加してしまうので毎回、目を血眼にしながら予習しました。全ての課題として出される読み物はオンラインでアップロードされるので、気軽にコピーして書き込みながら読んだり、ノートパソコンで読んだりできます。教科書類を一切買わなくて、済んだのでとても良かったです。毎日、長文を読む機会があったのでよいトレーニングになりました。

今振り返ると、授業があったのは9月の終わりから12月の初めだったのでとても短い期間でした。しかし、そのあいだで学べたことは本当に沢山ありました。英語の能力だけでなく、人との接し方、授業態度など普段は気にしないことも国が違えば異なるので短い期間でしたがそれと比べて学べたこと、吸収したことは大きかった気がします。個人的にはエッセイの書き方を学べたことが嬉しかったです。HUSAプログラムでカーディフ大学に留学することができて良かったです。多感な若いうちに、こういった海外の大学で学び、国際交流ができて本当に良かったと思いました。

② 生活の概要に関するレポート

カーディフは物価も比較的安く、治安も悪くないので、「イギリスの住みやすい街」の上位の都市としても知られているほどです。実際に5ヶ月という短い期間ですが、住んでみて、それは半分正しくて半分間違っていると思います。カーディフは街自体がコンパクトで買い物、観光、勉強など全てが1つにまとまっています。買い物をするときは移動が非常に楽です。つまり、繁華街やショッピングセンター、レストラン、カフェがまとめて1つになっています。なんでも一回の買い物で済ませることができます。それが住みやすさを高めているのだと思います。しかし、治安に関して言うと決して危険な街とまではいきませんが、夜遅くに一人で出歩くのは危ないと思います。物乞いをするホームレスも多いし、日本と違う街の雰囲気に最初は戸惑いました。人によって感じ方は違うと思いますが、日本ほど治安が良くて住みやすい国はないだろうと強く感じました。私がカーディフに来て最も苦労したことといっても過言ではないのが、部屋探しです。カーディフ大学は半年のみの学生には大学の住居を提供していません。そのため、現地に到着後すぐに大学近くの不動産屋をめぐり物件を探さなくてはなりませんでした。幸運にも同じ状況に陥っているヨーロッパからの留学生と一緒にグループを作り、2週間近くかかりましたが、彼らと協力しあったことにより、無事に部屋を見つけることができました。しかし、イギリスで6ヶ月のみという短期間で部屋を貸してくれる物件は思った以上に少なかったのが部屋探しを難航させた要因だと思います。しかし、異国の地で部屋探しは、なかなかできないことなので、良い経験だったと今ではいい思い出です。

カーディフでの生活は基本的にのんびりとしていました。授業は毎日ありましたが、ほとんど午後からでした。平日は朝起きて、授業前に図書館に行き予習をしっかりしてから授業に臨みました。放課後は日本でいうサークル活動に積極的に参加し、イギリス人の友達作りに精を出しました。一番楽しかったのは、Japanese Societyです。日本人留学生と日本語を勉強している学生や日本に興味のある学生との交流を目的とするサークルでした。毎週金曜日の夜に大学近くのパブに集まります。使用言語は Japanese Society とうたっているものの、ほぼ英語なのが驚きです。しかし、ここでたくさんの素敵なイギリス人学生と友達になることができました。週末は Student Union (学生生協のような団体)が催している比較的低価格の旅行にルームメイトと一緒に参加しました。ビーチやカーディフ周辺の都市へバスに乗り日帰りでしたが、楽しむことができました。

カーディフ大学は留学生が多く、サークル活動や週末の旅行などイベントが盛りだくさんで友達を作る機会がたくさんあります。日本からの留学生も多すぎず、少なすぎずちょうどいいです。先生も学生も親切なので勉強で困ったらすぐに相談ができます。勉強も遊びも両方楽しみたかった私にとってカーディフ大学は最高の留学先でした。























